

第6回 豊橋市市民協働推進審議会 議事録

日 時	平成29年1月31日（火） 10:00～11:30
場 所	豊橋市役所 東121会議室
報告者	大竹 祐輔
出席者	別紙のとおり
傍聴者	なし

1 開会

2 会長あいさつ

○議事録署名者 小野田敏夫委員、阪本いづみ委員

議題1 今後の市民協働のあり方について

※資料1に基づき事務局が説明

会 長：本日は前回に引き続き「今後の市民協働のあり方について」の提言案について議論し、案をまとめていく。

前回の審議会で議論した以外で意見等があれば事務局の方へ伝えてもらうようお願いした。提言案について意見があったので、本日別に配られた資料をもとに提出していただいた委員より説明をお願いしたい。

委 員：資料について説明

会 長：委員の提言案は、前回までの審議で話しあわれた提言とすべき3つの柱と1つずつ対応しているということによいか。

委 員：問題なし

会 長：別添の提言案を確認しつつ、具体的に何を書き込んでいくのかを本日考えていきたい。

委 員：各自治会などがいいことをやっても、知られていないということが大きな問題である。公会堂で自治会の事例を発表するような機会があるが年1回しかないのもっと発表できる場があるとよい。また、町や校区で気軽に話あえる場があると地域の輪づくりが進んでそれが市民協働にもつながると感じる。

会 長：提言に記載する取組み項目としては1. 若者・青年層の活動が活発になるための支援、2. 協働事業へつながる地域課題の洗い出し、3. 市民協働の理解の促進」の3つでいいか。

委 員：異議なし。

会 長：見せ方という部分について、一般的には抽象度の高いものから記載することが多いが、今回は実効性の高いものからの順番としている。見せ方や並べ方も大事なことなので委員の意見をもらいたい。

委 員：文書の構成の自然な流れとして、抽象的な方からの順番の方がいいではないか。

委員：インパクトはあるが、現在、市民協働として活動する中心はシニア層と思われる。「シニア層が子どもたちを育てて」というイメージはあるが、若者・青年層を急に取り入れようといっても育たないのではないか。

委員：並べ方は意識していなかったが、若者・青年層が最初に来ることで自治体が力を入れていることはわかる。力を入れるならこの順番だと思う。

委員：並べ方は特に気にならない。

委員：個々の項目は並記の意味合いだと思うが、この書き方の印象としては力を入れていると感じる。普通は抽象的から具体的になっていることが多い。現在、積極的に活動に取り組んでいるシニア層、その辺りのバランスもある。

会長：いろいろ意見があるが、常識を変えるという意味も含め若者・青年層への期待も込めて今回の案の並べ方でどうか。

委員：異議なし。

会長：内容についてだが、どこまで具体的に記載していくかだが、事務局としてはこの案にさらに具体的項目を追加する方向でここで議論、意見出しをするという考えか。

事務局：その辺り、どこまで記載するかも審議会の中で決めていただきたい。

会長：どこまでと一概には決めきれない気もするが、案にあるような文書の中に具体的な取り組みを書いていくと分かりづらい。他の委員の方はどうか。

事務局：同じである必要はないが、原案は前回の提言をもとに同じような形で作成してある。

委員：案にあるようなリード文は無しにして、具体的な取り組みのみを記載としてはどうか

委員：3つの項目を主題として、1、2行のリード文、その下に具体的取り組み項目を記載し、さらに具体的取り組みの補足説明を入れるという形はどうか。

委員：意見なし

会長：それでは各項目にどの辺りまで具体的に項目としていくか意見をいただきたい。

会長：若者・青年層への支援では、金沢市で大学同士の交流会を行っていたりする。連携という部分で3大学合同の交流会や支援するためのわかりやすい相談窓口として看板をかかげるなどあげられる。

委員：具体的ではあるが、若者・青年層といったときに、3大学と記載してしまうと範囲が決まってしまうような気もする。愛知県の大学に通っている市内在住の若者や高校生などもいる。汎用性がある方がいいような気もする。

委員：若者は情報をつかめていない。市民活動を知らない。報告会を大学で行うのはいい機会だと感じる。若者の活動は気分であるところもあり続かない。続けていける支援ができるといいかもしれない。

委員：大学生なども昔に比べて活動に対する意識の変化はあるように思う。自発的な活動ができる支援はありがたい。

委員：若い人はSNSばかり見ている。SNSを活用して情報を提供できるといいか

もしれない。

事務局：若者が主体的に活動すれば、彼ら自身が自然に活動をSNSで発信すると思われるため、そこを心配するよりも若者が主体的に活動できる環境づくりが必要ではないかと考える。

委員：若者向け補助金を作っても誰も使わなかったら意味がない。

会長：新しい補助金で若者が使いやすいよう要件のハードルを下げるかわりにSNSで情報を発信することを条件としてはどうか。

委員：地域課題の洗い出しについて、身近な課題の身近とはどういったレベルをいつているのか。

委員：住んでいるという主体として、校区でなく町がモデルではないか。

委員：社会福祉協議会ではモデル民生委員児童委員協議会などを行っているが、自治会にもそういったものがあるのか。

事務局：防災分野などでは各部署と自治会が行っている。

委員：提言案の文言の中にもすでに具体的な項目はある程度は書いてある。しかし地域課題のところは若者や理解のところと比べて具体性が薄い。

委員：行動に踏み出せない人も多いので、一步踏み出すための機会とする内容がいい。

会長：補助金制度を続けているが、活用する団体のすそ野が広がっていない。そういったことも必要と思うので、簡単にはいかないかもしれないが盛り込んでいきたい。

委員：地域課題の洗い出しではイメージがわきにくいので、具体的なイメージがわくよう内容や記載に工夫をして変更したい。

委員：そもそも提言の位置づけはどのようなものか。

会長：施策に生かしていくものであり、より具体的に展開しやすいものである必要があると考える。具体的な活動指針。

見せ方も大事、若者・青年層支援と地域課題の項目が進むことで市民協働の理解も進む。市民協働の理解はその他と連動するという方向で表現の工夫をお願いしたい。本日の意見を元に、提言内容を次回で決定したい。

議題2 平成29年度市民協働推進補助金の応募状況について

※資料2に基づき事務局が説明

会長：事務局の説明または配布資料から何かこの場で質問等はあるか

委員：特になし

3 その他

次回は、2月下旬～3月上旬予定

議題（予定）

- ・ 今後の市民協働のあり方について（提言策定）
- ・ 平成２９年度市民協働推進補助金事前審査

４ 閉会

平成 年 月 日

議事録署名者

小野田 敏夫 ㊞

阪本 いつみ ㊞

第 6 回豊橋市市民協働推進審議会出席者名簿

NO	氏 名	選任区分
1	いわさき まさや 岩崎 正弥	学識経験者 愛知大学地域政策学部教授
2	※大谷 代里子	豊橋市自治連合会から推薦 豊橋市自治連合会監事
3	おおば ひろぶみ 大場 博文	豊橋市社会福祉協議会から推薦 社会福祉協議会職員
4	すずき み え 鈴木 美江	豊橋商工会議所から推薦 豊橋商工会議所女性会会長
5	あさくら みつ え 朝倉 三恵	市民センター指定管理者から推薦 NPO法人 愛知ネット
6	ながい れいな 永井 伶奈	国際交流協会から推薦 CSN 豊橋前代表（愛知大学 3 年）
7	お の だ としお 小野田 敏夫	公募
8	さかもと いづみ 阪本 いづみ	公募

任期：平成 27 年 5 月 10 日～平成 29 年 5 月 9 日

※任期：平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 5 月 9 日

《事務局》

文化市民部

市民協働推進課 課 長 河合 幸子
主 幹 小久保 雅司
課長補佐 夏目 直美
主 査 木佐貫 敦士
主 査 大竹 祐輔
主 事 白井 敬紘
主 事 中村 志織